

TOKACHI
十勝の

景気動向

◇ 全業種	1P
◇ 製造業	3P
◇ 卸売業	5P
◇ 小売業	7P
◇ 建設業	9P
◇ 不動産業	11P
◇ サービス業	13P
◇ 運輸業	15P

調査要領 調査数 415 社 調査時点：平成21年9月1日～平成21年9月7日
回答数 406 社 調査地域：当金庫本支店所在地
回答率 97.8 % 調査方法：当金庫本支店職員による面接聞き取り法
分析方法：判断D.I.を中心に分析

全業種

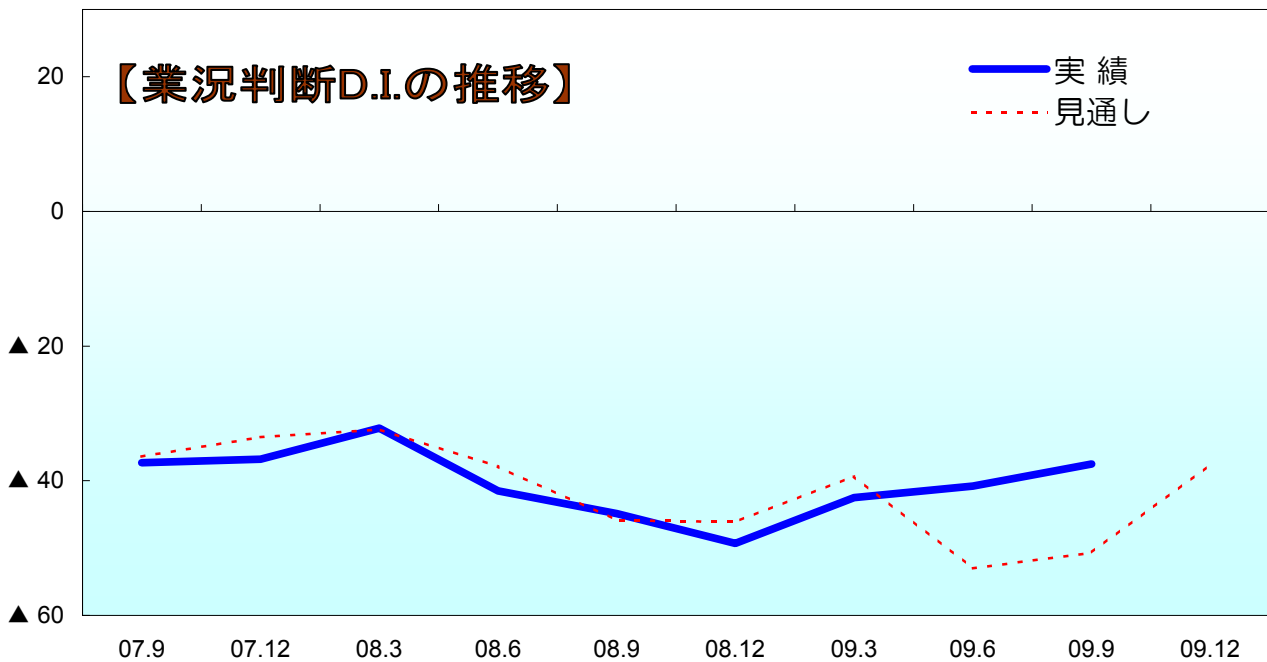
【今 期】

今期(7~9月期)の「業況判断」(D.I.以下同じ)は▲38の「悪い超」と、大幅悪化を見込んでいた前回見通し(▲51)に比べ13ポイント上振れ、前期・前年同期と比べてみてもそれぞれ3ポイント、7ポイントの改善となった。また、「売上額」は▲18と「減収超」幅が前期比6ポイント縮小し、「収益」も▲22と「減益超」幅が同4ポイント縮小した。

こうした状況下、今期の「設備投資」実施企業数は69社となり、前回調査に続き、前年同期(46社)を大きく上回った。

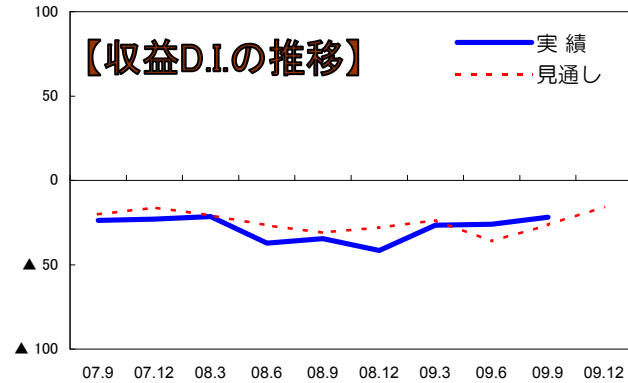
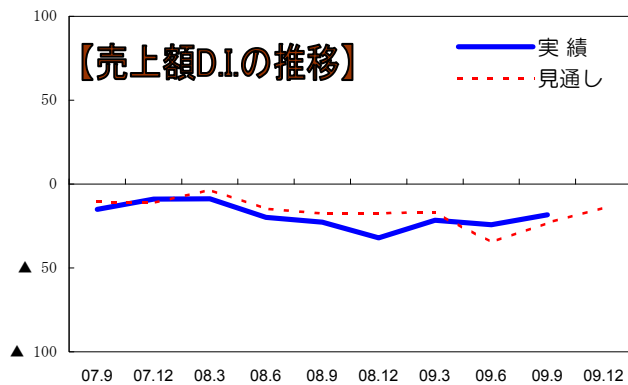
【来 期】

来期(10~12月期)の「業況判断」見通しは▲38の「悪い超」と、3期連続の改善となった今期実績比横ばい(前年同期比では8ポイントの改善)となり、先行きについて慎重な見方を続けてきた前2回の調査に比べ、悲観色はやや薄らいだ。また、「売上額」、「収益」についても、「減収超」幅、「減益超」幅の縮小が見込まれているほか、現時点で「設備投資」を計画している企業数も、引き続き前年同期を大幅に上回っている。



- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・料金価格、仕入・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 7~9月	20年 10~12月	21年 1~3月	21年 4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲ 45	▲ 49	▲ 43	▲ 41	▲ 51	▲ 38	▲ 38
売上額	▲ 23	▲ 32	▲ 22	▲ 24	▲ 23	▲ 18	▲ 14
収益	▲ 35	▲ 42	▲ 27	▲ 26	▲ 26	▲ 22	▲ 16
販売・料金価格	11	▲ 5	▲ 17	▲ 18	▲ 12	▲ 6	▲ 9
仕入・材料価格	63	25	▲ 2	3	3	8	5
在庫	2	0	5	0	2	5	0
資金繰り	▲ 24	▲ 24	▲ 24	▲ 20	▲ 23	▲ 22	▲ 24
残業時間	▲ 12	▲ 16	▲ 5	▲ 12	▲ 8	▲ 6	▲ 7
人手	▲ 4	0	▲ 8	▲ 3	▲ 6	▲ 8	▲ 6
現在設備	▲ 6	▲ 7	▲ 7	▲ 6	▲ 7	▲ 11	▲ 10



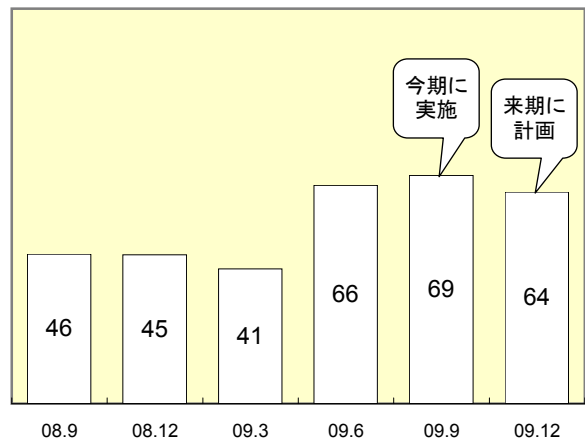
経営上の問題点

	社	比率	前期比(社)
売上の停滞・減少	266	65.5%	▲ 20
同業者間の競争の激化	163	40.1%	▲ 8
利幅の縮小	145	35.7%	5
大手企業との競争の激化	52	13.8%	▲ 14
販売納入先からの値下げ要請	26	8.6%	2
人件費の増加	22	5.4%	3
代金回収の悪化	14	3.4%	0
店舗の狭小・老朽化	19	6.2%	▲ 3
人件費以外の経費の増加	15	3.6%	2
人手不足	26	6.4%	19
合理化の不足	9	3.7%	▲ 1

当面の重点施策

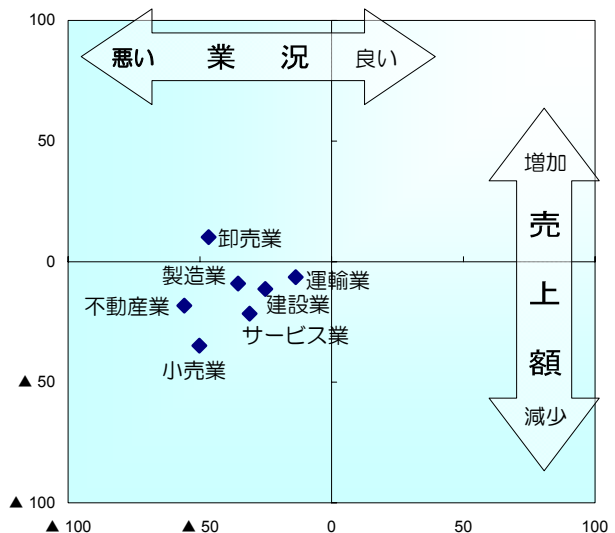
	社	比率	前期比(社)
経費を節減する	275	67.7%	7
販路を広げる	134	53.3%	2
情報力を強化する	69	40.1%	0
人材を確保する	51	12.5%	9
教育訓練を強化する	44	10.8%	5
新しい事業を始める	18	4.8%	▲ 4
パート化を図る	8	1.9%	▲ 1
提携先を見つける	14	9%	▲ 4
不動産の有効利用を図る	10	2.4%	1
特になし	16	4.2%	▲ 4
労働条件を改善する	14	5.5%	6
機械化を推進する	9	2.9%	3
その他	4	0.9%	▲ 1

設備投資

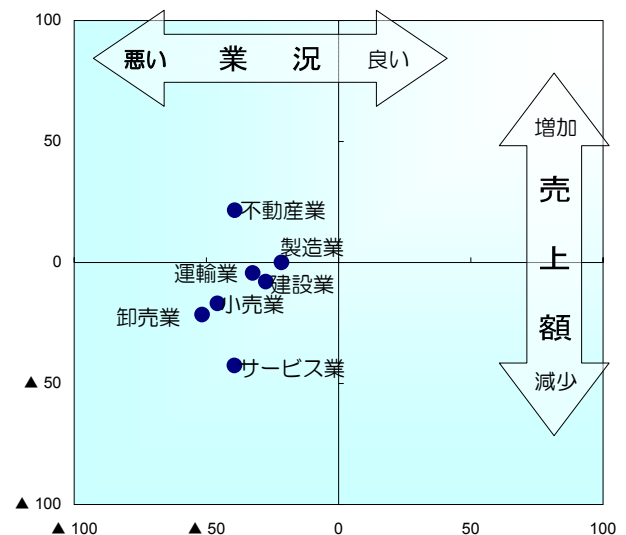


業種別の動き

今期の実績



来期の見通し



製造業

調査数 40 社
 回答数 38 社
 回答率 95.0 %

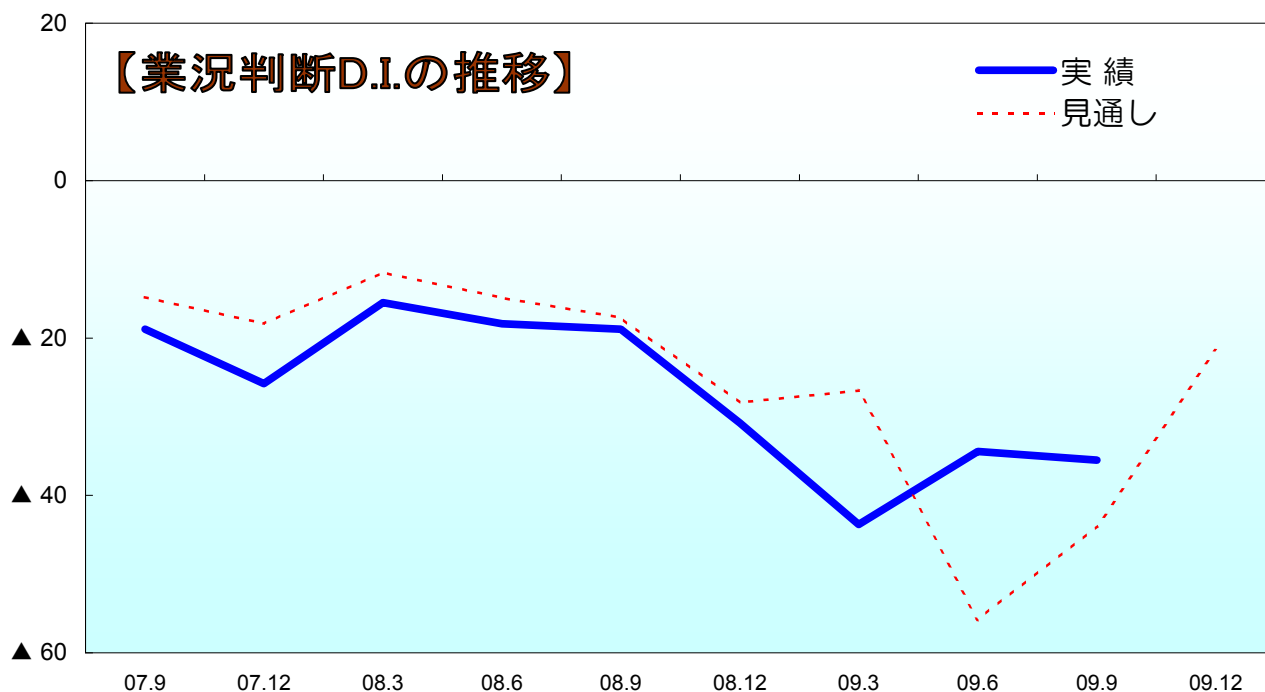
【今 期】

今期の「業況判断」は▲36の「悪い超」と、前回見通し(▲44)比8ポイントの上振れとなったものの、前期(▲34)比、前年同期(▲19)比では「悪い超」幅が拡大した。業種別にみると、前回調査で「悪い超」から「良い超」に転化した「食料品製造」が「良い超」幅を拡大したほか、窯業・土石が「悪い超」幅をさらに縮小した一方、木材・木製品が依然低水準で推移しているのが目立った。なお、「売上額」は前期の「増収超」(+10)から「減収超」(▲9)に転化し、「収益」も▲15と前期(▲10)比「減益超」幅を拡大した。

この間、「設備投資」実施企業数をみると、前期に続き二桁台を維持し、前期比急減した前年同期との対比では倍増となった。

【来 期】

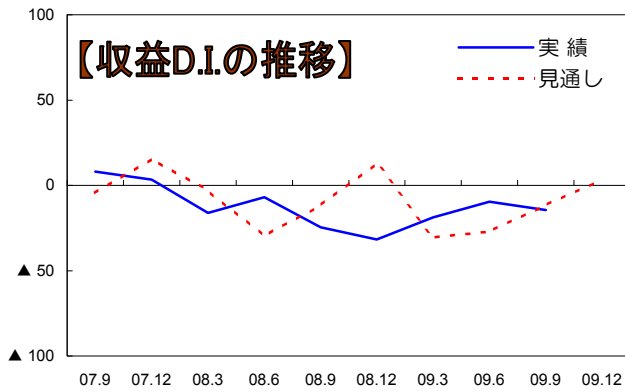
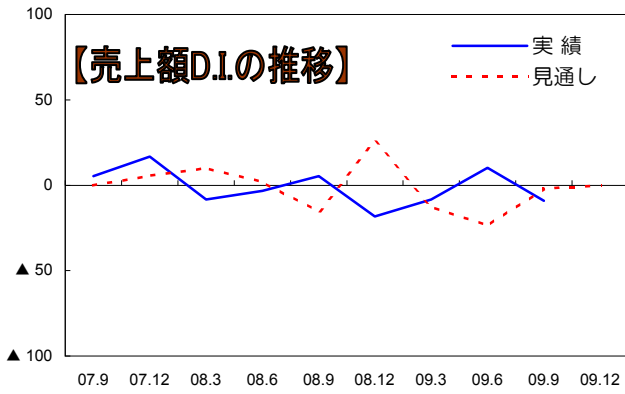
来期の「業況判断」は▲22と、今期実績比で14ポイントの大幅改善となり、「売上額」は2期ぶりに「減収超」が解消し、「収益」も8期ぶりに「増益超」に転化する見通し。こうした状況下、「設備投資」を計画している企業数も前年同期比倍増の高水準を維持する見通しとなっている。



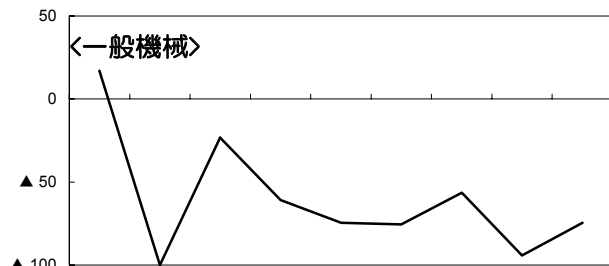
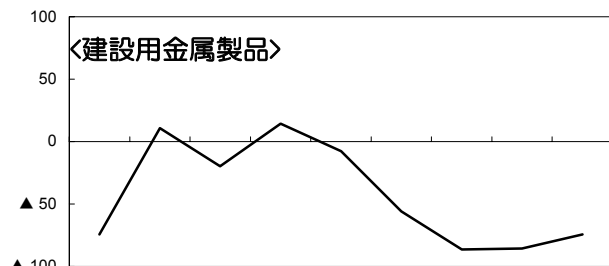
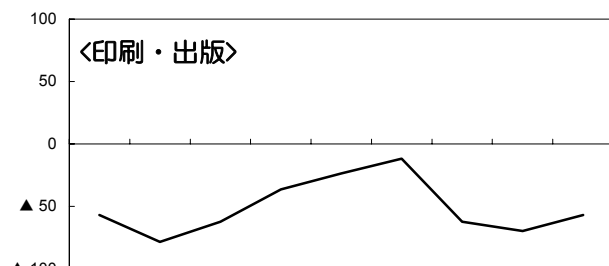
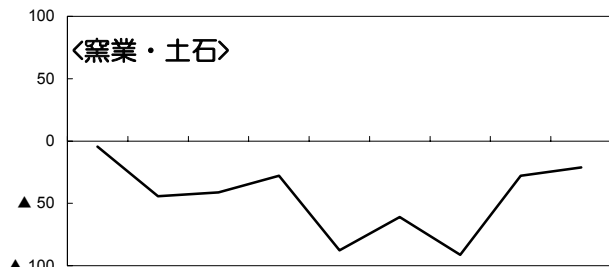
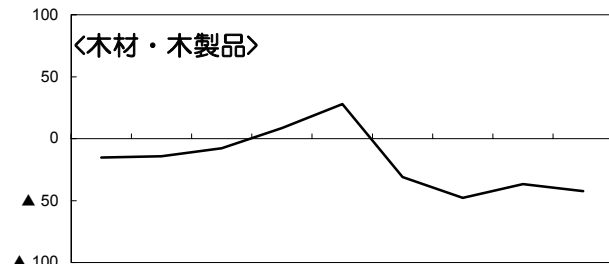
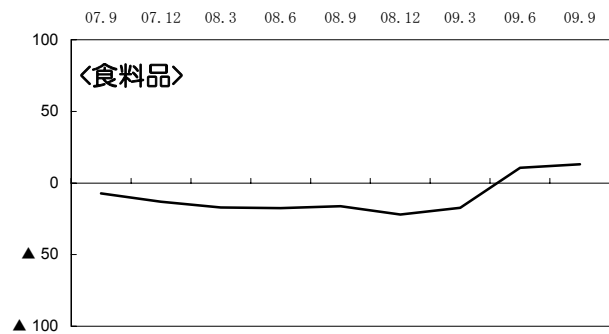
◆判断D.I.

- 業況
⇒「良い」-「悪い」
 - 売上額、受注残、収益、
残業時間
⇒「増加」-「減少」
 - 販売・原材料価格
⇒「上昇」-「下降」
 - 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
 - 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 7~9月	10~12月	21年 1~3月	4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲19	▲31	▲44	▲34	▲44	▲36	▲22
売上額	5	▲18	▲8	10	▲2	▲9	0
受注残	▲24	▲31	▲20	▲10	9	▲14	0
収益	▲25	▲32	▲19	▲10	▲12	▲15	3
販売価格	22	14	▲13	▲18	▲19	▲11	▲5
原材料価格	87	62	▲8	▲17	▲17	▲3	8
原材料在庫	5	5	24	34	32	16	3
資金繰り	7	▲2	▲3	▲8	▲13	▲16	▲18
残業時間	▲13	▲14	▲15	▲17	▲10	▲16	▲18
人手	▲3	0	▲11	9	10	▲3	▲4
現在設備	▲3	▲7	2	0	0	3	▲2



中分類別の業況D.I.の推移



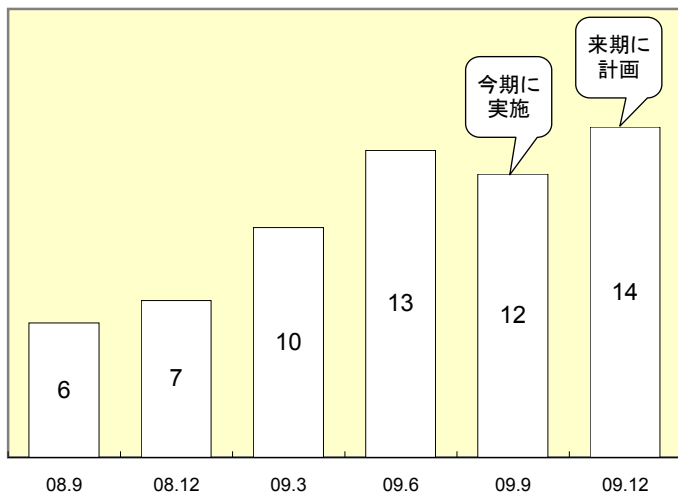
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	25	66%
利幅の縮小	18	47%
同業者間の競争の激化	16	42%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	26	68%
販路を広げる	24	63%
情報力を強化する	18	47%

設備投資



卸売業

調査数 30 社
 回答数 30 社
 回答率 100.0 %

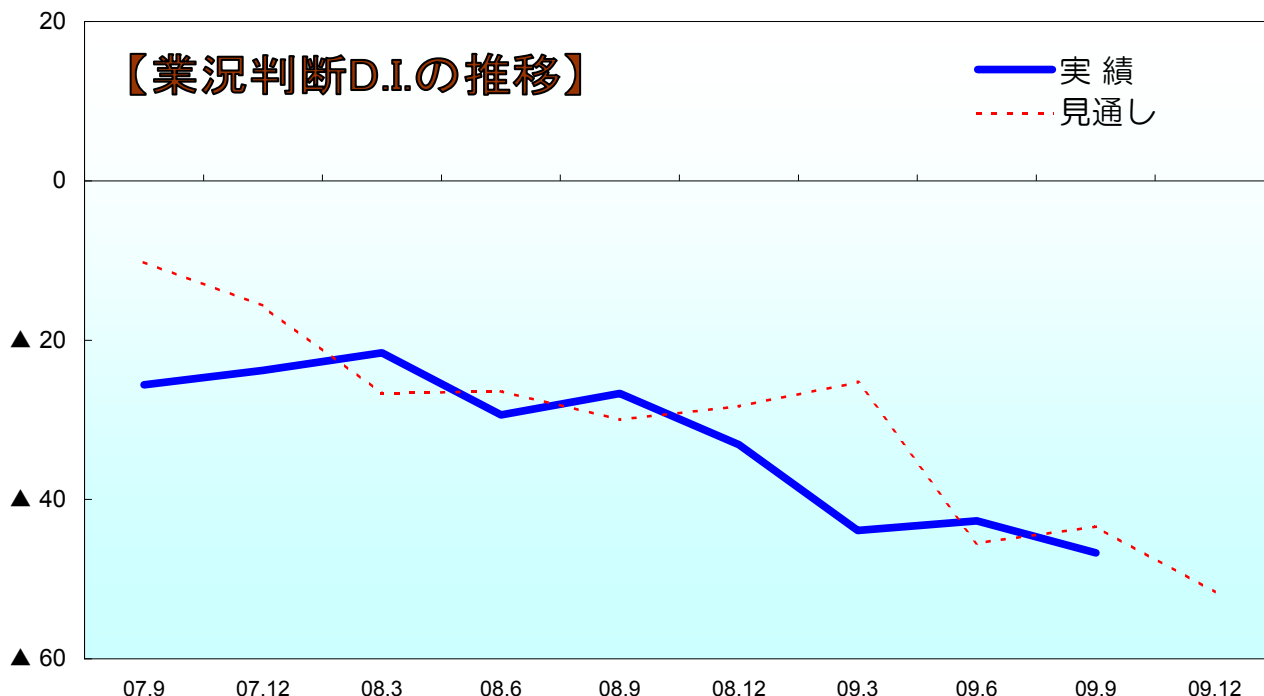
【今 期】

今期の「業況判断」は▲47の「悪い超」と、前期実績、前回見通し（ともに▲43）に比べ小幅ながら一段と悪化した。品目別にみると、農水産物、食料・飲料の悪化が目立っている。もっとも、「売上額」は+10と5期ぶりに「減収超」から「増収超」に転化したほか、「収益」も▲8と5期ぶりに「減益超」幅が一桁にとどまった。この間、「仕入価格」が+12と前期(+2)比「上昇超」幅を拡大した一方、「販売価格」も+3と前期(▲9)の「下降超」から「上昇超」へ転化した。

なお、「人手」や「現在設備」は「過剰超」幅を拡大しており、「設備投資」実施企業数は前期比、前年同期比ともに減少した。

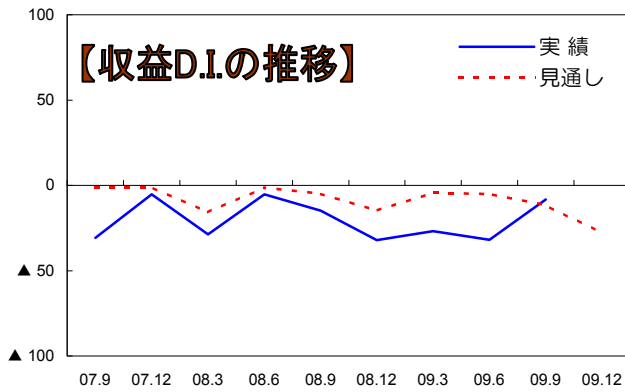
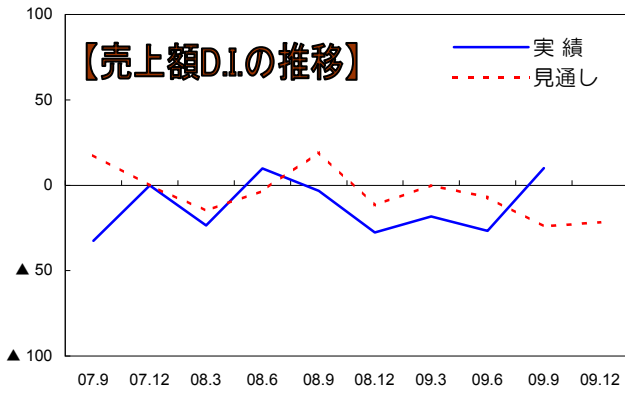
【来 期】

来期の「業況判断」は、▲52の「悪い超」と一段と悪化する見通し。また、「売上額」、「収益」も「減収超」への転化や「減益超」幅拡大が見込まれている。こうした状況下、「現在設備」の過剰感の強まりから、「設備投資」を計画している企業数が依然低水準にとどまる見通しとなっている。

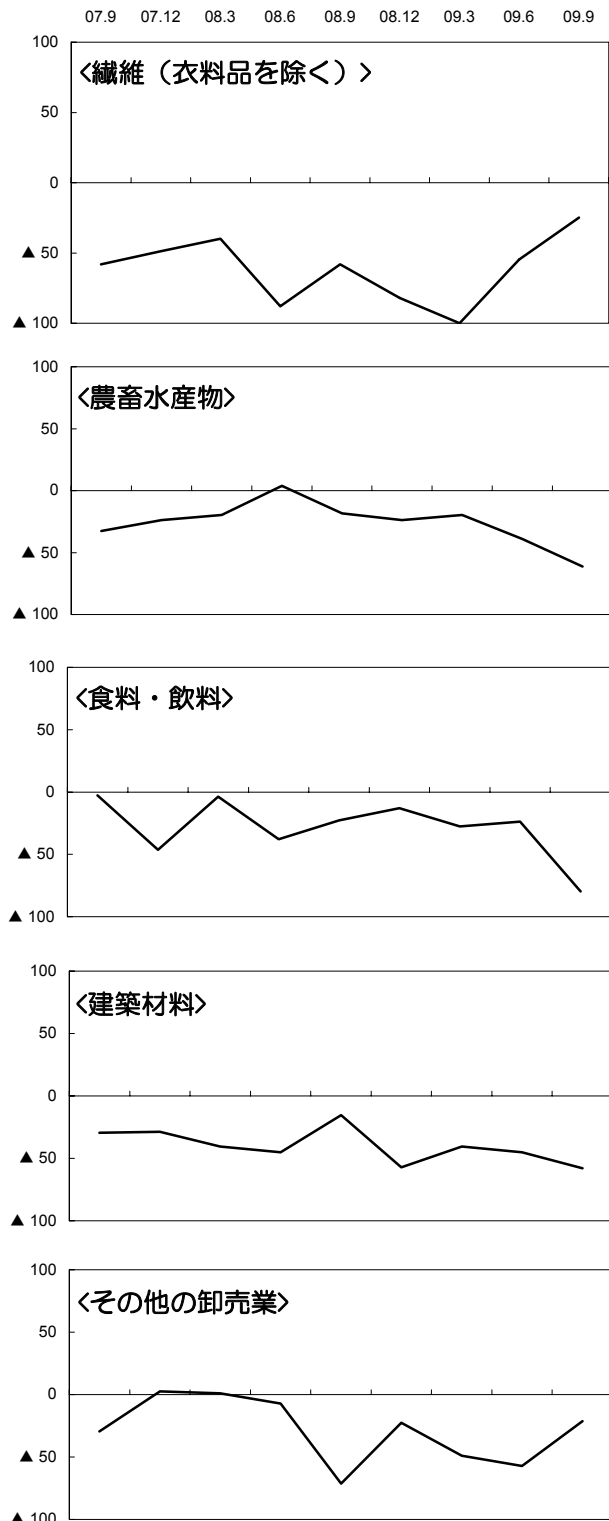


- ◆判断D.I.
 ○業況
 ⇒「良い」-「悪い」
 ○売上額、収益、残業時間
 ⇒「増加」-「減少」
 ○販売・仕入価格
 ⇒「上昇」-「下降」
 ○在庫、人手、現在設備
 ⇒「過剰」-「不足」
 ○資金繰り
 ⇒「楽」-「苦しい」
 ※季節調整済

	20年 7~9月	10~12月	21年 1~3月	4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲ 27	▲ 33	▲ 44	▲ 43	▲ 43	▲ 47	▲ 52
売上額	▲ 3	▲ 28	▲ 18	▲ 27	▲ 24	10	▲ 22
収益	▲ 15	▲ 32	▲ 27	▲ 32	▲ 12	▲ 8	▲ 28
販売価格	37	16	▲ 3	▲ 9	▲ 7	3	▲ 6
仕入価格	55	15	▲ 2	2	▲ 3	12	1
在庫	30	11	11	5	3	7	▲ 7
資金繰り	0	▲ 3	▲ 2	▲ 8	▲ 7	0	▲ 11
残業時間	▲ 5	▲ 8	▲ 13	▲ 10	▲ 3	▲ 12	▲ 8
人手	4	10	5	1	▲ 10	4	6
現在設備	8	5	4	3	0	5	6



中分類別の業況D.I.の推移



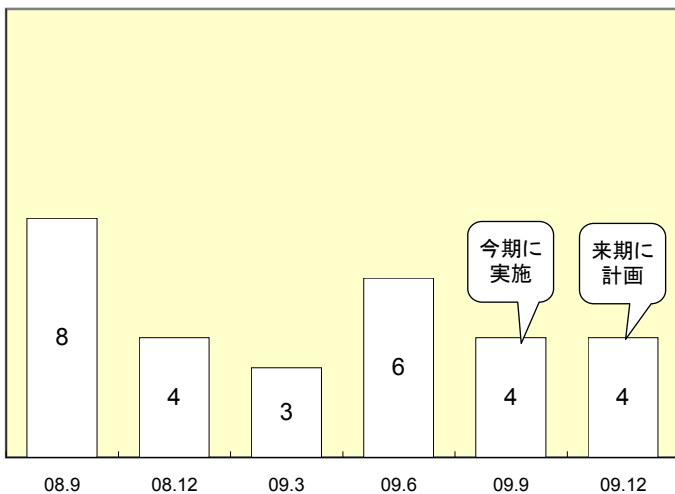
経営上の問題点

問題点	社	比率
売上の停滞・減少	18	60%
同業者間の競争の激化	16	53%
利幅の縮小	11	37%

当面の重点施策

施策	社	比率
販路を広げる	23	77%
経費を節減する	19	63%
情報力を強化する	13	43%

設備投資



小売業

調査数 159 社
 回答数 155 社
 回答率 97.4 %

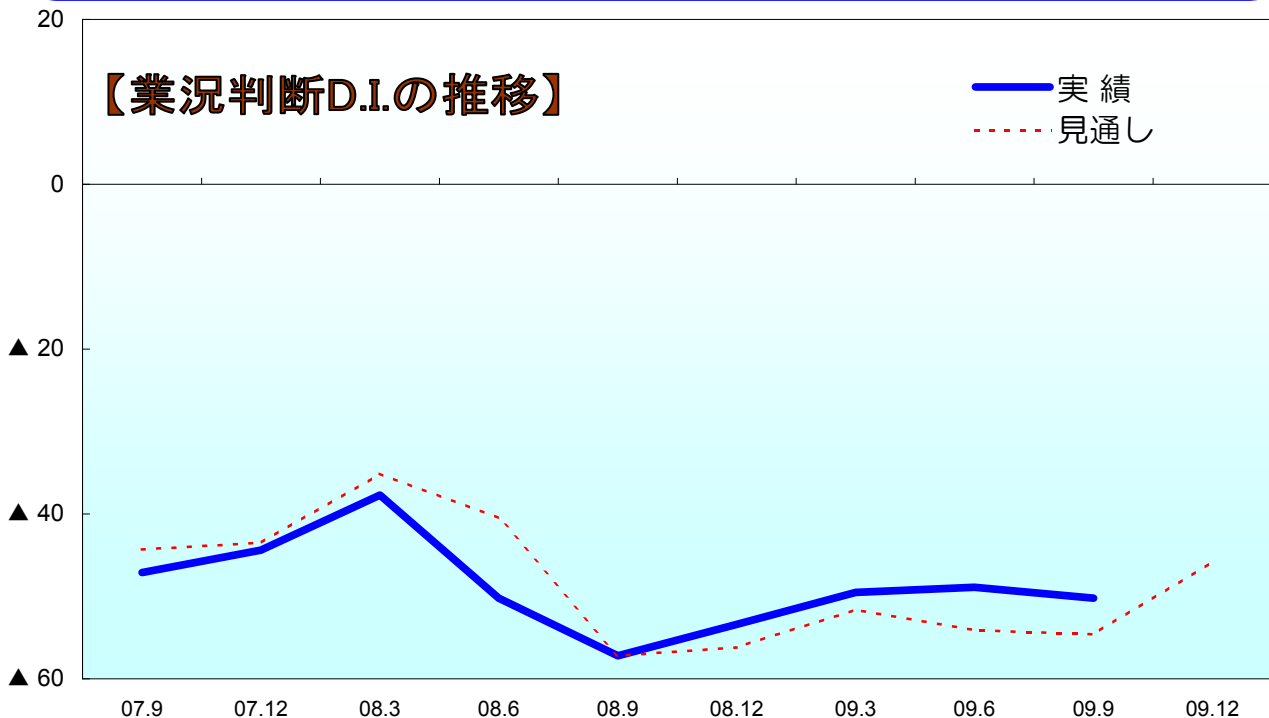
【今 期】

今期の「業況判断」は▲50の「悪い超」と、前回見通し(▲55)比5ポイント上振れたものの、前期(▲49)に比べると概ね横ばいの低水準にとどまった。もっとも、前年同期(▲57)と比べてみると、「仕入価格」の「上昇超」幅が大きく縮小(+49→+6)し、「収益」の「減益超」幅が大幅に縮小(▲51→▲31)したことなどもあって、「悪い超」幅が7ポイント縮小した。業種別にみると、総じて前期に比べて悪化している中、家庭用電器が「悪い超」幅を縮小し、18年10~12月期以来の水準まで回復した点が目立っている。

こうした中、「現在設備」は引き続き「不足」超となっているが、これに対し、「設備投資」の実施企業数は比較的伸び悩んでいる。

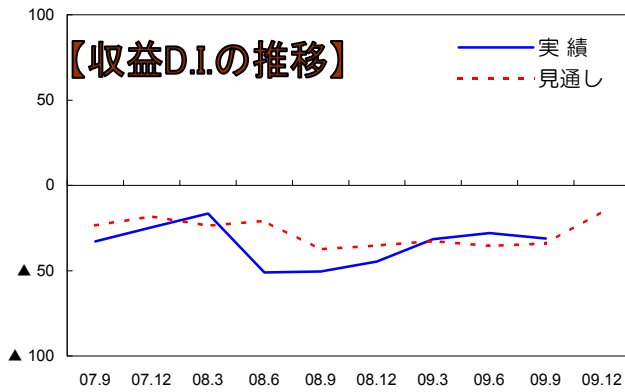
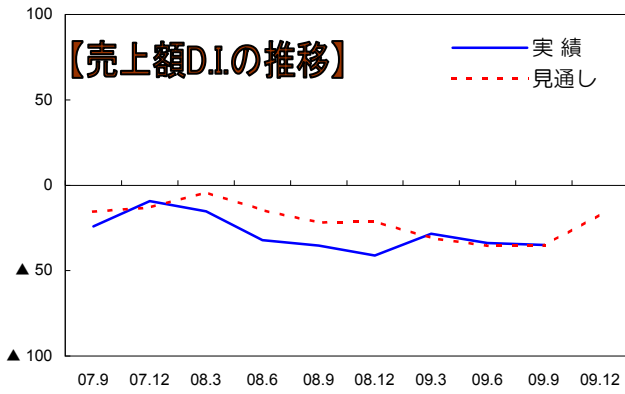
【来 期】

来期の「業況判断」見通しは▲46と、今期実績に比べ「悪い超」幅が4ポイント縮小したが、先行きについては引き続き厳しい見方が多く、改善テンポは極めて緩慢なものとなっている。

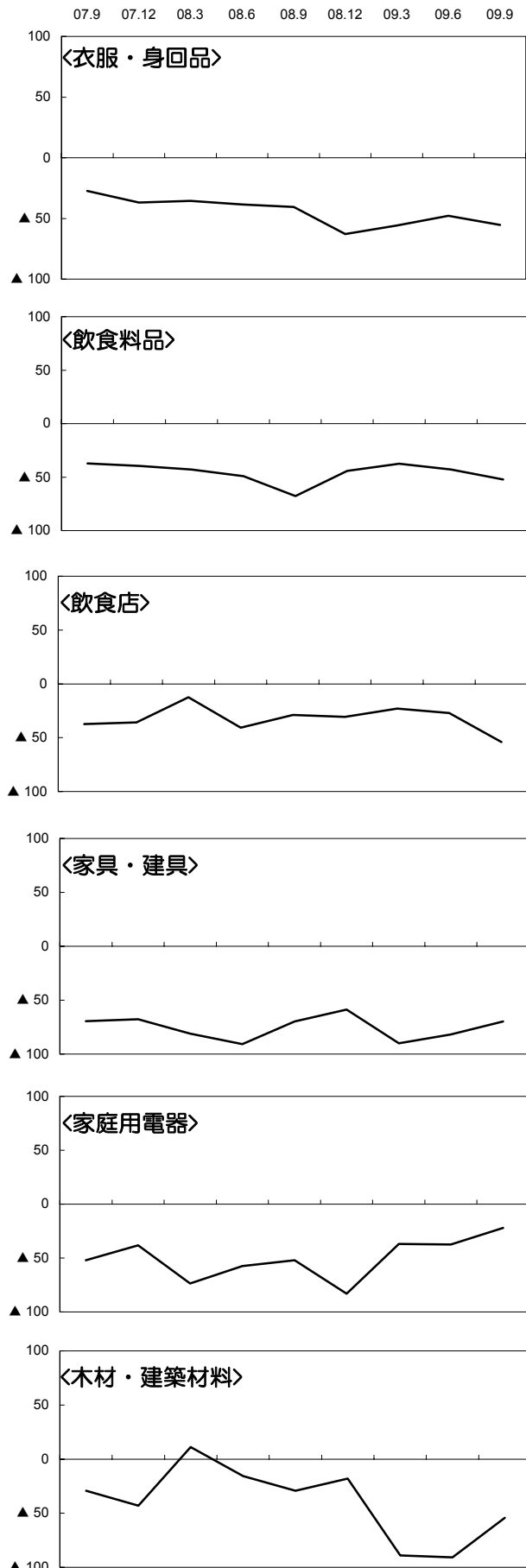


- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・仕入価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 7~9月	10~12月	21年 1~3月	4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲ 57	▲ 53	▲ 50	▲ 49	▲ 55	▲ 50	▲ 46
売上額	▲ 35	▲ 41	▲ 28	▲ 34	▲ 36	▲ 35	▲ 17
収益	▲ 51	▲ 45	▲ 32	▲ 28	▲ 34	▲ 31	▲ 15
販売価格	24	2	▲ 16	▲ 15	▲ 6	▲ 2	▲ 9
仕入価格	49	13	▲ 4	2	3	6	▲ 2
在庫	▲ 5	▲ 3	0	▲ 2	0	8	5
資金繰り	▲ 30	▲ 28	▲ 28	▲ 26	▲ 27	▲ 32	▲ 29
残業時間	▲ 10	▲ 12	▲ 2	▲ 8	▲ 5	▲ 5	▲ 4
人手	▲ 8	▲ 1	▲ 13	▲ 7	▲ 8	▲ 6	▲ 5
現在設備	▲ 8	▲ 12	▲ 7	▲ 9	▲ 9	▲ 12	▲ 11



中分類別の業況D.I.の推移



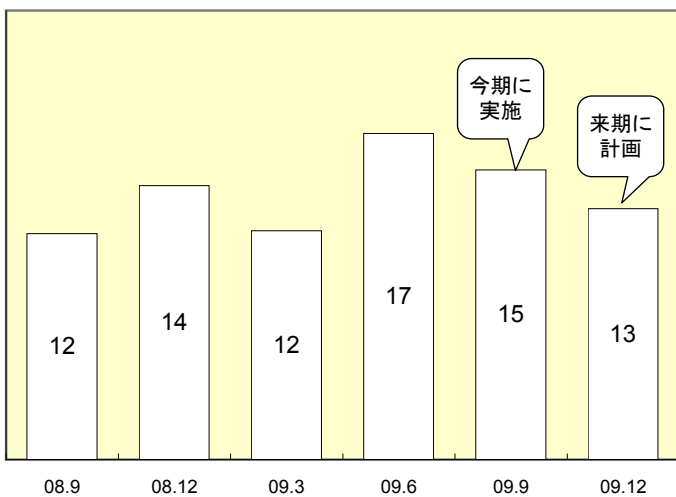
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	109	70%
同業者間の競争の激化	49	32%
利幅の縮小	42	27%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	102	66%
品揃えを改善する	72	46%
売れ筋商品を取り扱う	62	40%

設備投資



建設業

調査数 97 社
 回答数 96 社
 回答率 98.9 %

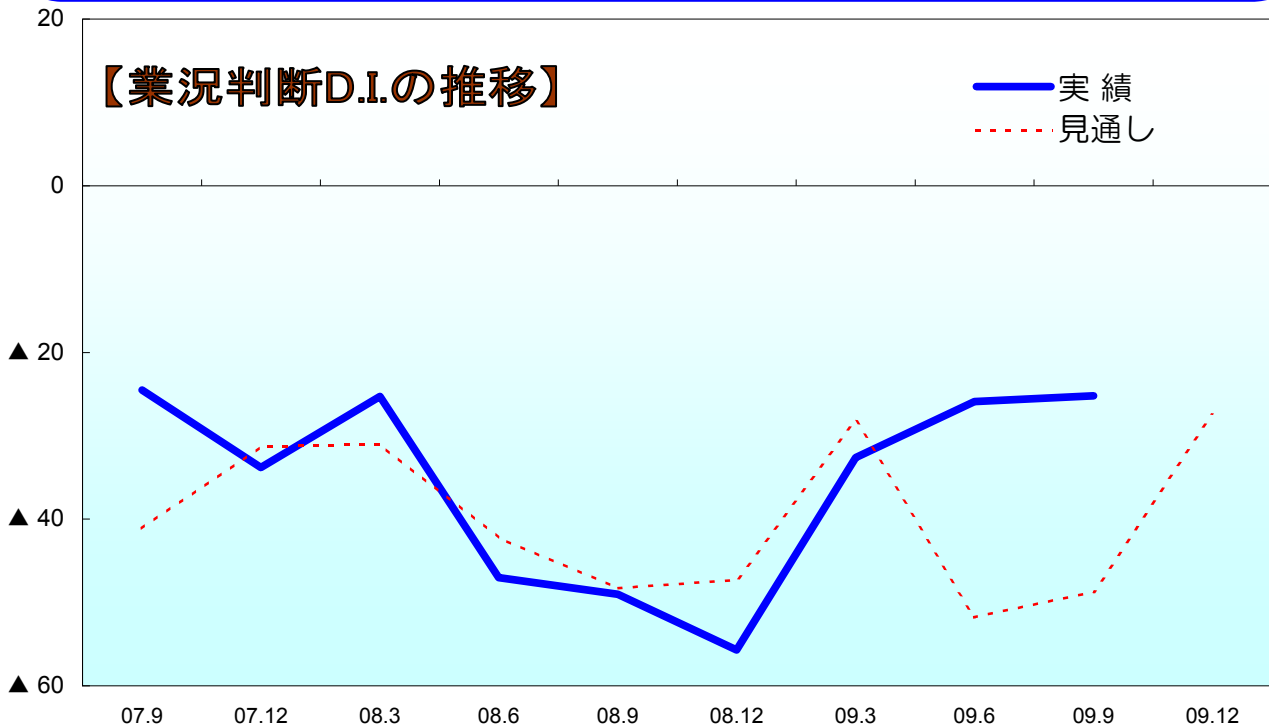
【今 期】

今期の「業況判断」は▲25の「悪い超」と、前回見通し(▲49)に比べ大幅上振れとなり、前期(▲26)に比べて小幅ながら改善し、21年1~3月以来3期連続で「悪い超」幅が縮小した。また、「売上額」(▲7)、「収益」(▲16)なども、前回調査では前期並みないし前期を下回るとの慎重な先行き見通しとなっていたものの、「減収超」幅、「減益超」幅はそれらに比べて半減し、前期比改善をみた。この間、「材料価格」(+4)の「上昇超」幅が一段と縮小する一方で、「請負価格」(▲13)の「下降超」幅がさらに縮小しており、収益、受注環境の厳しさは一頃に比べ緩和してきている。

なお、「現在設備」が「不足超」の状態にある中で、「設備投資」の実施企業数はこのところ前年を上回っている。

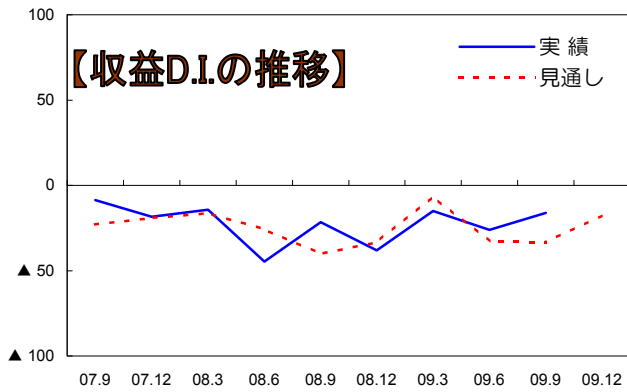
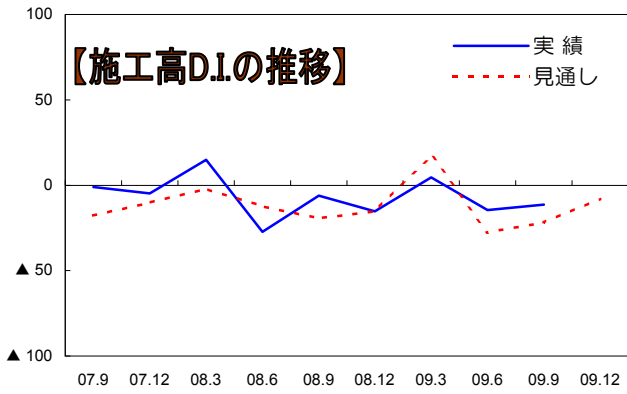
【来 期】

来期の「業況判断」は▲28の「悪い超」と、今期実績比3ポイント悪化する見通しとなっているが、前2回の調査でみられた先行き慎重な見通しは、ここにきてやや後退した。



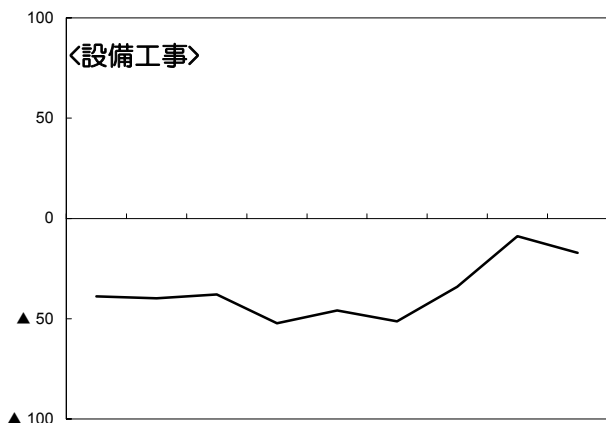
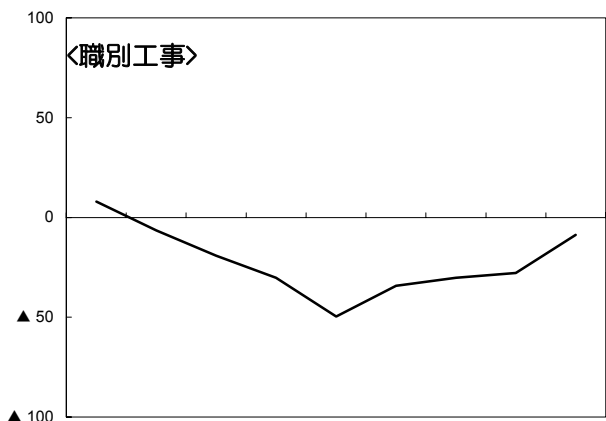
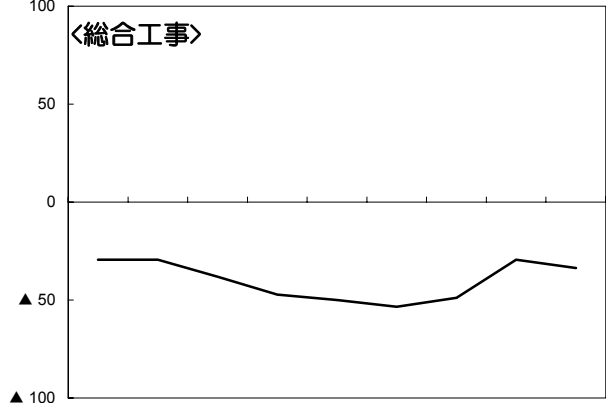
- ◆判断D.I.
 ○業況
 ⇒「良い」-「悪い」
 ○売上額、受注残、施工高
 収益、残業時間
 ⇒「増加」-「減少」
 ○請負・材料価格
 ⇒「上昇」-「下降」
 ○在庫、人手、現在設備
 ⇒「過剰」-「不足」
 ○資金繰り
 ⇒「楽」-「苦しい」
 ※季節調整済

	20年 7~9月	20年 10~12月	21年 1~3月	21年 4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲ 49	▲ 56	▲ 33	▲ 26	▲ 49	▲ 25	▲ 28
売上額	▲ 20	▲ 22	0	▲ 15	▲ 15	▲ 7	▲ 4
受注残	▲ 13	▲ 18	▲ 16	▲ 20	▲ 30	▲ 15	0
施工高	▲ 6	▲ 15	5	▲ 15	▲ 22	▲ 11	▲ 8
収益	▲ 22	▲ 38	▲ 15	▲ 26	▲ 33	▲ 16	▲ 18
請負価格	▲ 17	▲ 29	▲ 28	▲ 26	▲ 22	▲ 13	▲ 10
材料価格	79	40	15	8	9	4	14
在庫	2	▲ 2	2	▲ 6	▲ 3	▲ 4	▲ 3
資金繰り	▲ 25	▲ 21	▲ 25	▲ 16	▲ 21	▲ 19	▲ 21
残業時間	▲ 17	▲ 28	0	▲ 15	▲ 14	▲ 3	▲ 10
人手	3	5	▲ 9	0	▲ 3	▲ 15	▲ 10
現在設備	▲ 2	0	▲ 5	▲ 3	▲ 3	▲ 8	▲ 5



中分類別の業況D.I.の推移

07.9 07.12 08.3 08.6 08.9 08.12 09.3 09.6 09.9



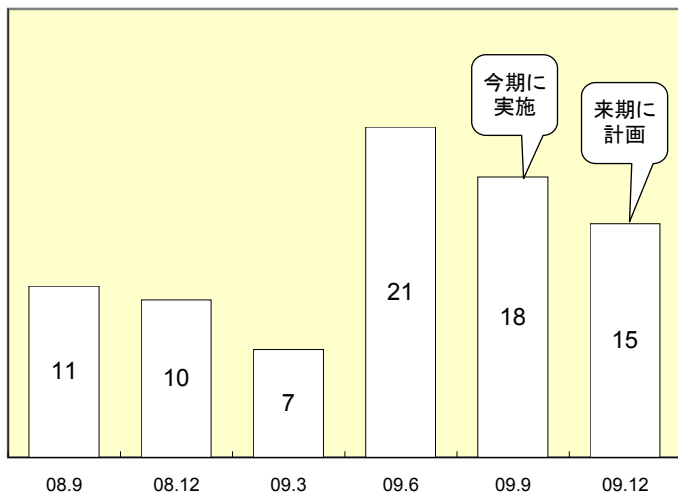
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	62	65%
同業者間の競争の激化	56	58%
利幅の縮小	49	51%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	67	70%
販路を広げる	46	48%
技術力を高める	33	34%

設備投資



不動産業

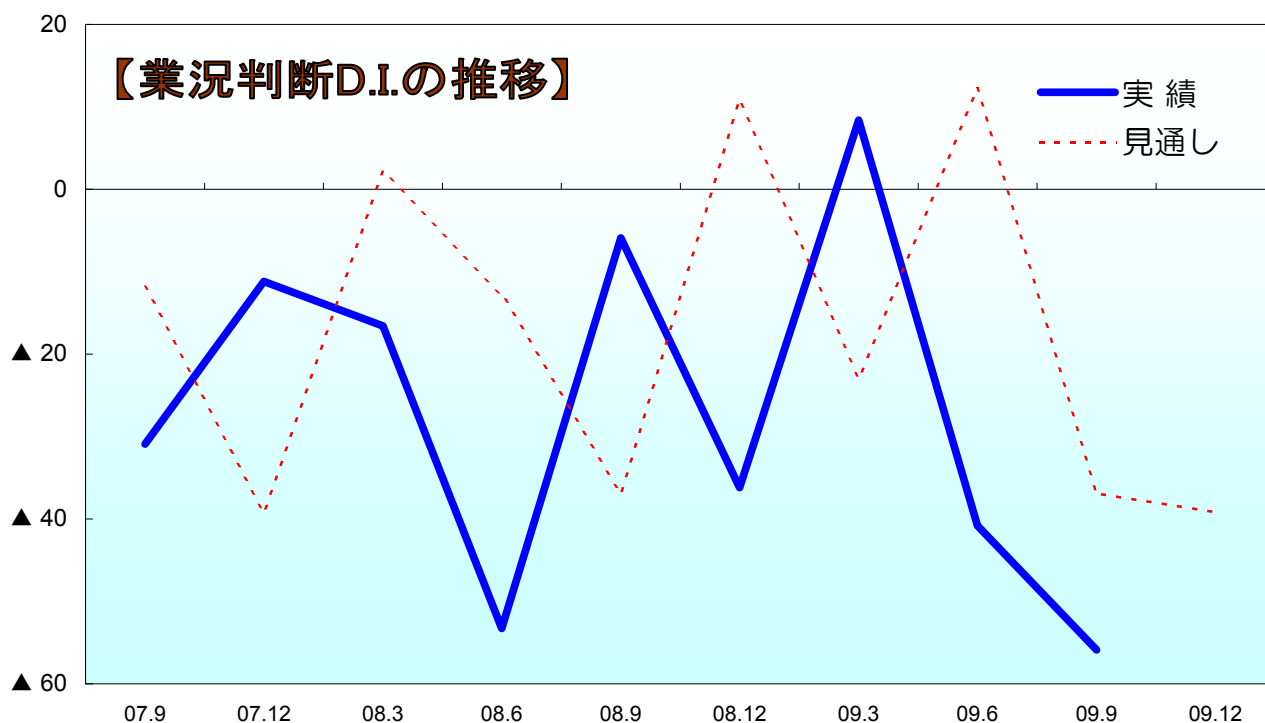
調査数 9 社
 回答数 8 社
 回答率 88.8 %

【今 期】

今期の「業況判断」は▲56の「悪い超」と、前期（▲41）、前回見通し（▲37）をさらに大きく下回り、いわゆるバブル崩壊以降では最大の「悪い超」となった。この間、「仕入価格」が「下降超」の前回見通しから「上昇超」に転化した一方、「販売価格」が「下降超」を続けたこともあって、「収益」面では改善を見込んでいた前回見通しの「減益超」幅が大幅に拡大するところとなった。

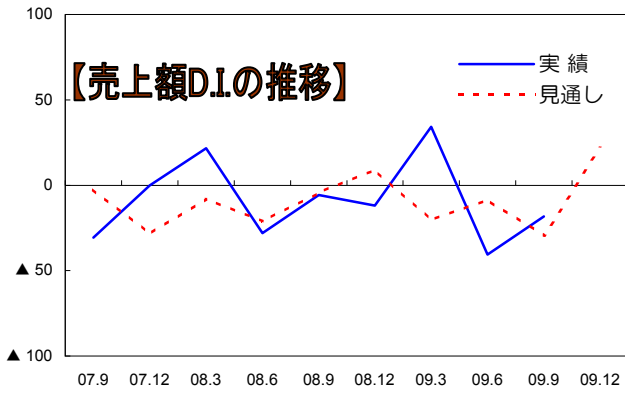
【来 期】

来期の「業況判断」は▲39と、「悪い超」が今期実績比17ポイントの大幅な改善となる見通し。この間、「販売価格」の「下降超」幅は拡大するものの、「売上額」の「増収超」転化や「仕入価格」の「下降超」転化、さらには「在庫」調整の進捗等から、「収益」面でも「増益超」への転化が見込まれている。

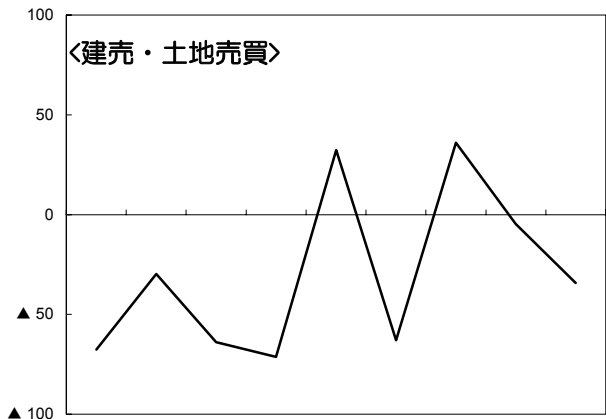
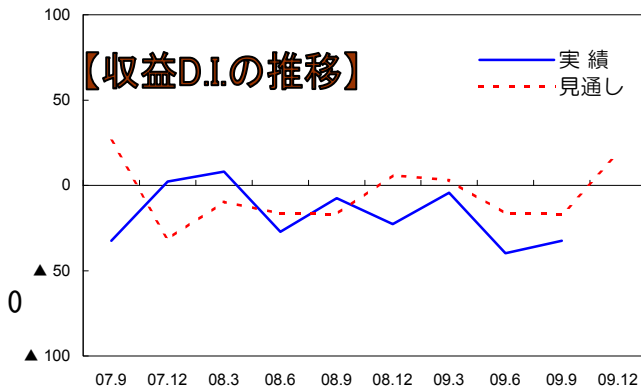
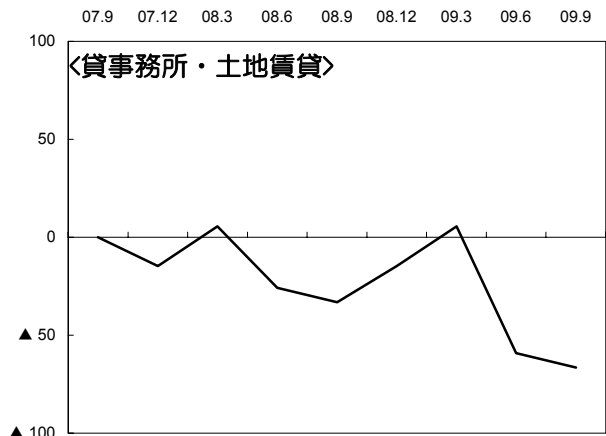


- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・仕入価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 7~9月	10~12月	21年 1~3月	4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲ 6	▲ 36	8	▲ 41	▲ 37	▲ 56	▲ 39
売上額	▲ 6	▲ 12	34	▲ 41	▲ 29	▲ 18	22
収益	▲ 8	▲ 23	▲ 4	▲ 40	▲ 17	▲ 33	19
販売価格	0	▲ 33	▲ 13	▲ 42	▲ 23	▲ 24	▲ 32
仕入価格	14	3	▲ 33	▲ 8	▲ 16	2	▲ 12
在庫	3	0	7	▲ 21	▲ 20	▲ 22	▲ 24
資金繰り	▲ 5	1	20	9	5	▲ 5	▲ 30
残業時間	14	▲ 13	▲ 12	▲ 14	▲ 3	1	0
人手	1	0	▲ 7	▲ 8	▲ 8	▲ 11	▲ 12



中分類別の業況D.I.の推移

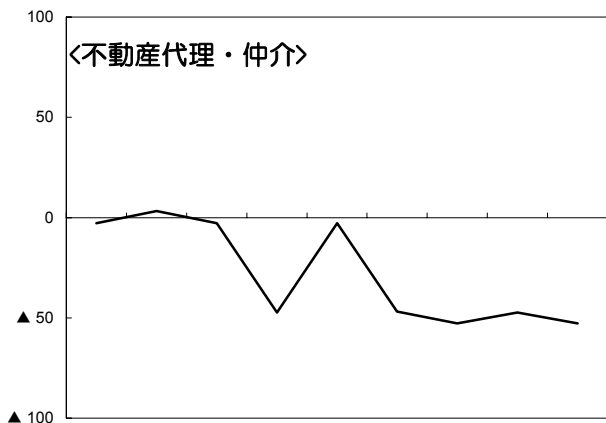


経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	6	75%
利幅の縮小	5	63%
同業者間の競争の激化	3	38%

当面の重点施策

	社	比率
情報力を強化する	5	63%
経費を節減する	4	50%
販路を広げる	3	38%
宣伝・広告を強化する	3	38%



サービス業

調査数 52 社
 回答数 51 社
 回答率 98.0 %

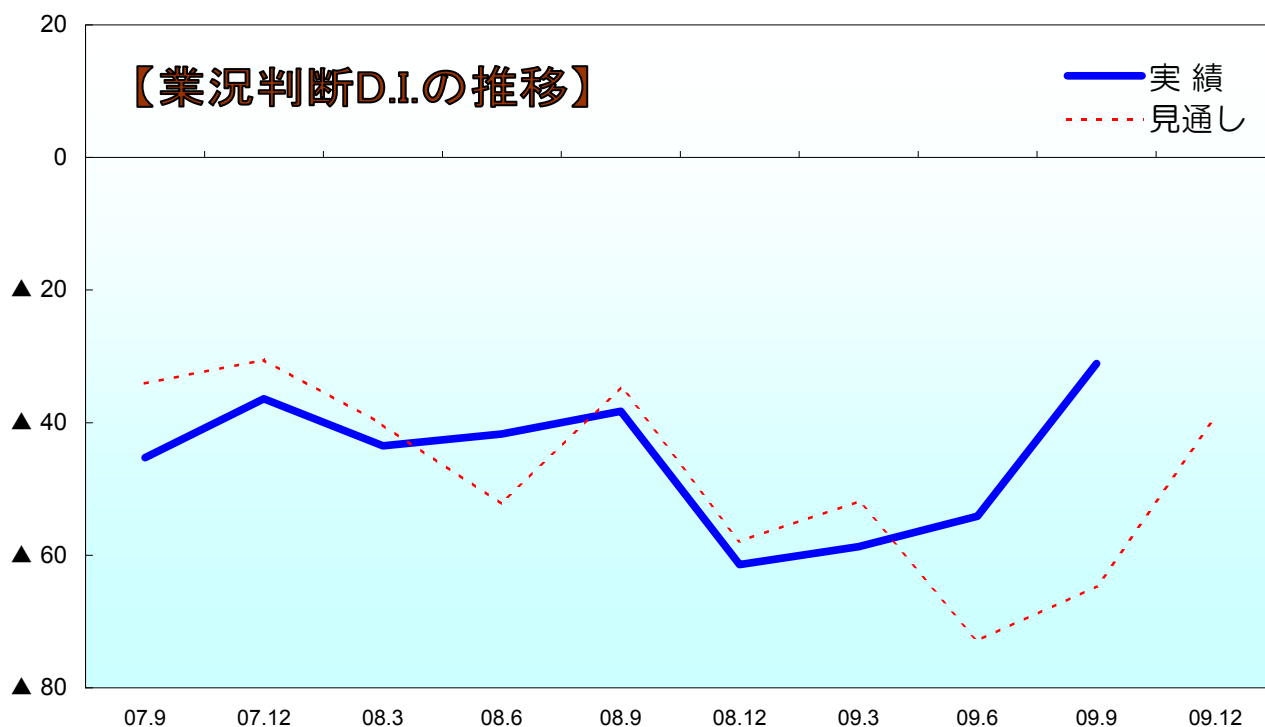
【今 期】

今期の「業況判断」は▲31の「悪い超」と、前回見通し(▲65)比34ポイントの大幅上振れとなり、前期(▲54)比、前年同期(▲38)比とも改善した。この間、「売上額」、「収益」は「減収超」幅(▲22)、「減益超」幅(▲25)が前回見通し比、前期比ともに縮小した。

なお、「現在設備」については、「不足超」幅が緩やかに拡大してきている中で、「設備投資」実施企業数が大幅に増加している。

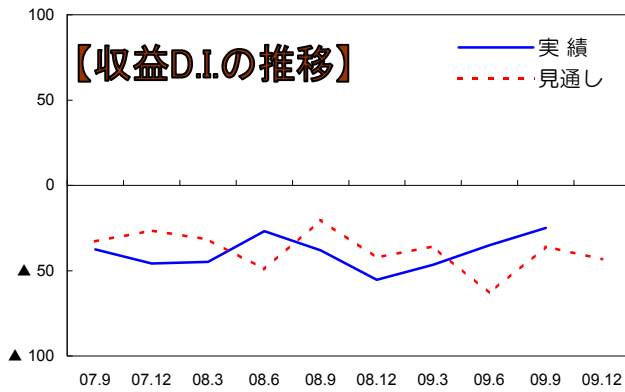
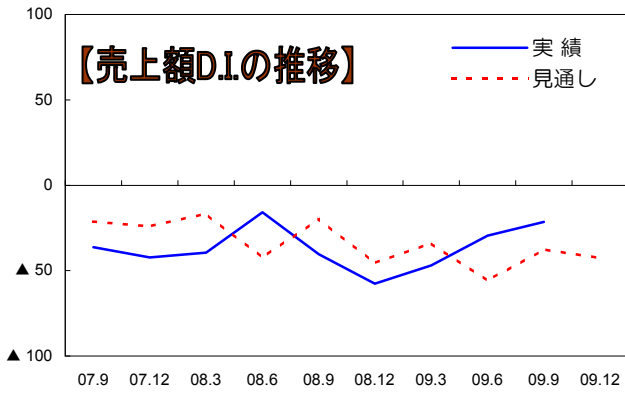
【来 期】

来期の「業況判断」見通しは▲39の「悪い超」と、今期実績比8ポイントの悪化となっており、先行きについてはなお慎重な見方が多い。

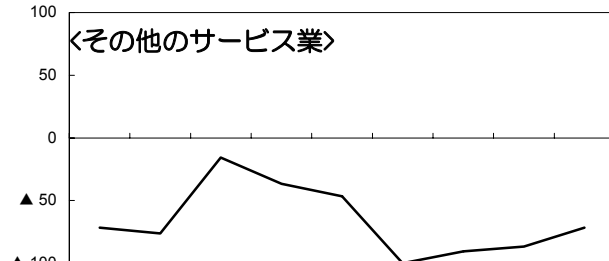
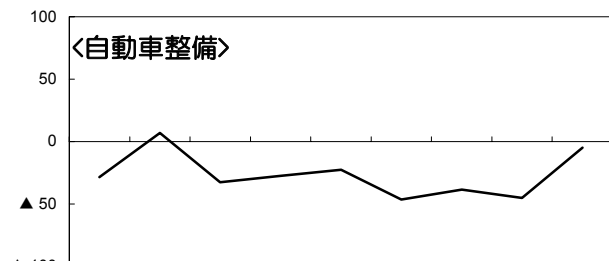
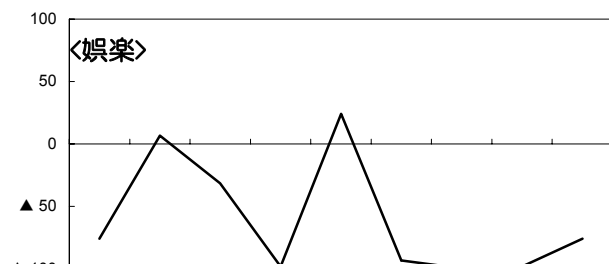
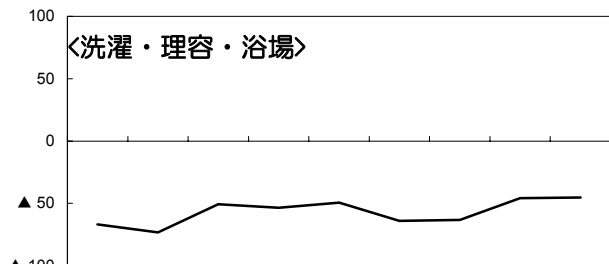
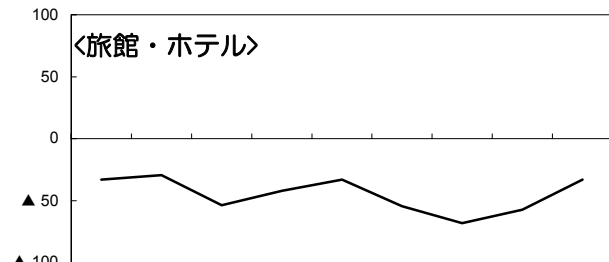
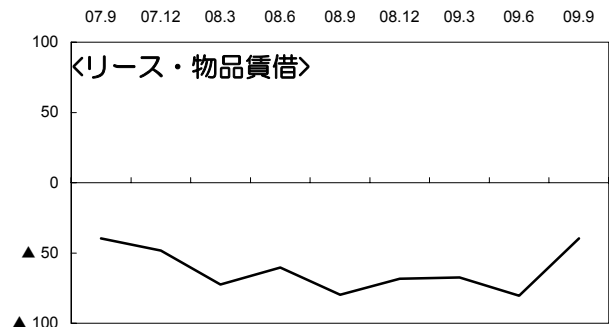


- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 料金・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 7~9月	10~12月	21年 1~3月	4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲38	▲61	▲59	▲54	▲65	▲31	▲39
売上額	▲40	▲58	▲47	▲30	▲38	▲22	▲43
収益	▲38	▲55	▲47	▲35	▲36	▲25	▲43
料金価格	▲4	▲6	▲5	▲17	▲11	▲10	▲12
材料価格	67	43	20	8	6	14	5
資金繰り	▲41	▲48	▲44	▲34	▲39	▲26	▲39
残業時間	▲16	▲23	▲19	▲9	▲11	▲9	▲16
人手	▲3	2	0	▲4	2	▲7	2
現在設備	▲17	▲15	▲14	▲17	▲20	▲29	▲27



中分類別の業況D.I.の推移



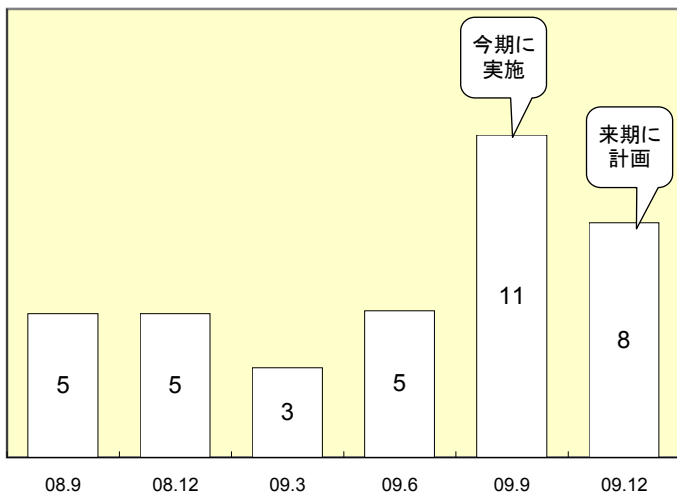
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	34	67%
同業者間の競争の激化	14	27%
利幅の縮小	13	25%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	32	63%
販路を広げる	21	41%
技術力を高める	12	24%

設備投資



運輸業

調査数 28 社
 回答数 28 社
 回答率 100.0 %

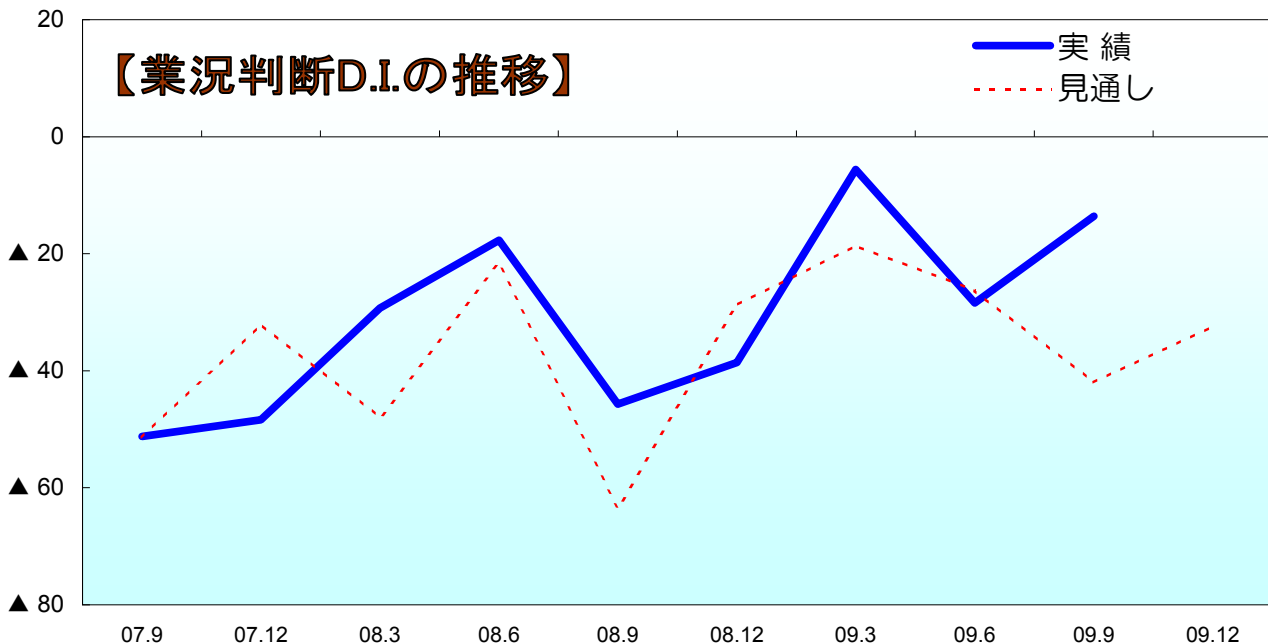
【今期】

今期の「業況判断」は▲14の「悪い超」と、前期見通し(▲42)比28ポイント上振れ、前期(▲28)比、前年同期(▲46)比とも大幅に改善した。この間、「料金価格」は+3と4期振りに「上昇超」に転じたものの、「売上額」が「増収超」転化を見込んだ前回見通しに反して「減収超」となったほか、「材料価格」が+34と前期(+9)に比べ大幅に「上昇超」幅が拡大したことなどから、「収益」は「増益超」を見込んだ前回見通しから一転して前期と同水準の▲14の「減収超」となった。

なお、「現在設備」については「不足超」幅が拡大してきている中で、「設備投資」の実施企業数はここにきて増加してきている。

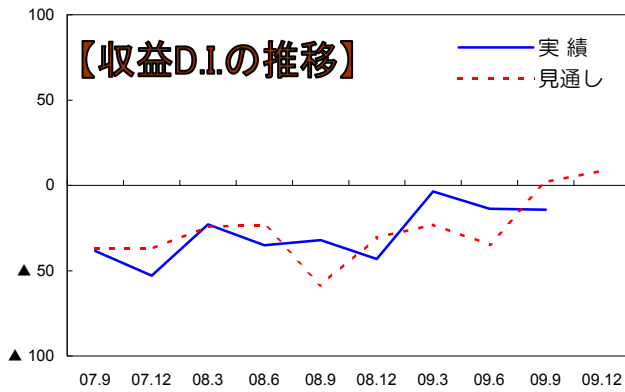
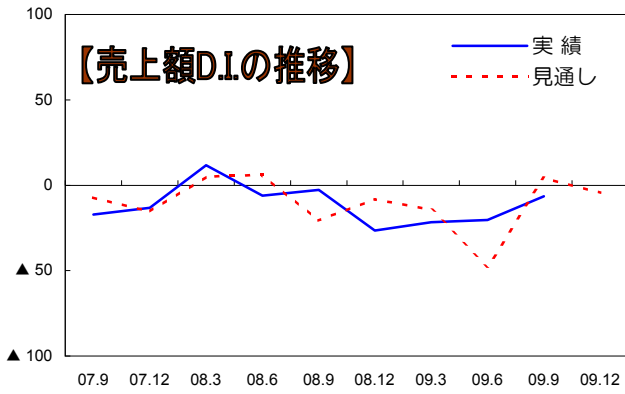
【来期】

来期の「業況判断」は▲32と、今期実績(▲14)に比べて「悪い超」幅が17ポイント拡大する見通し。もっとも、「材料価格」の「上昇超」幅縮小などから、「収益」は今期実績の「減益超」から「増益超」に転化する見込みとなっており、「設備投資」を計画している企業数もさらに増加している。



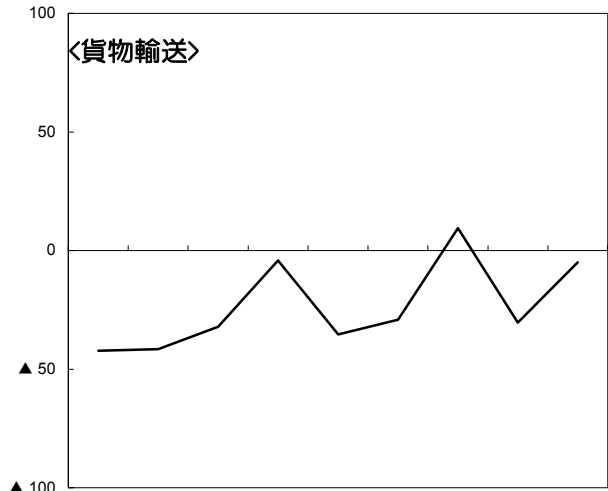
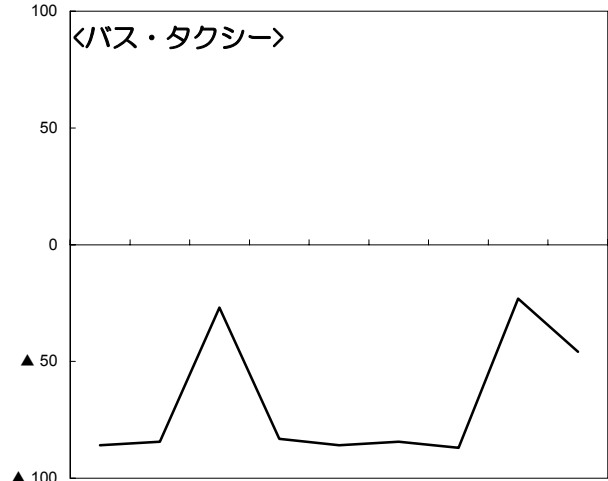
- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 料金・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 7~9月	10~12月	21年 1~3月	4~6月	前回調査 (見通し)	7~9月 (実績)	10~12月 (見通し)
業況	▲46	▲39	▲6	▲28	▲42	▲14	▲32
売上額	▲3	▲27	▲22	▲20	4	▲6	▲4
収益	▲32	▲43	▲4	▲14	2	▲14	9
料金価格	13	0	▲12	▲18	▲8	3	2
材料価格	66	▲22	▲49	9	22	34	27
資金繰り	▲28	▲30	▲23	▲16	▲26	▲6	▲9
残業時間	▲10	▲3	12	▲20	▲11	0	13
人手	▲14	▲10	▲18	▲7	▲23	▲18	▲26
現在設備	0	▲3	▲14	4	▲10	▲15	▲23



中分類別の業況D.I.の推移

07.9 07.12 08.3 08.6 08.9 08.12 09.3 09.6 09.9



経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	12	43%
材料価格の上昇	9	32%
利幅の縮小	9	32%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	25	89%
販路を広げる	17	61%
人材を確保する	9	32%

設備投資

